

**地域に生き、地域を愛し、地域に貢献できる児童生徒の育成
ー地域や仲間とのきずなを育む仲間づくり活動を通してー**
稲沢市立平和中学校
〈連携校：法立小学校・六輪小学校・三宅小学校〉

1 実践のねらい

- (1) 同じ地域に住む同年齢や異年齢の子どもたちが一緒になって地域を元気にする取組をすることを通して、小・中学校の連携を強化し、地域との連携を深める。
- (2) 仲間づくり活動を推進することを通して、自分たちの生活が地域の様々な支えの上に成り立っていることを子どもたちに気付かせ、地域に貢献したいという意欲を高める。

2 実践の内容

(1) 第1回仲間づくりサミット

小・中学生の協働で、地域を元気にするための活動の方向性について話し合い、共同宣言を出すことを目的として、第1回仲間づくりサミットを行った。中学校生徒会執行部と各小学校の児童会役員が集まり、三つのグループに分かれ、ワークショップ型の意見交換会を行った(資料1)。中学生がファシリテーターとして、各グループの話し合いをリードし、小学校5・6年生と、中学生を対象に行ったアンケートを基に、「平和町が元気になるとはどういうことか」「平和町を元気にするために何ができるか」についてそれぞれのグループで出た意見をまとめた。最後に各グループの話し合いの内容を集約し、仲間づくり活動のスローガンとして、「世代を超えた触れ合いと笑顔の力で平和地区を元気にしよう!」という共同宣言を採択することができた。同じ地域に住む小・中学生が地域のことを考える最初の間として、貴重な機会となった。



【(資料1) 意見交換会の様子】

その後、仲間づくり活動の意義について共通理解を図るために、小・中学校の朝礼で、仲間づくりサミットの様子を映像とともに全校児童生徒に報告した。

(2) 第2回仲間づくりサミット

第1回仲間づくりサミットを受けて、その内容を地域の代表の方と話し合い、アドバイスをいただく機会をもった(資料2)。

当日は、町内のまちづくり推進協議会会長を始め、体育振興会会長、学校評議員、PTA会長など、地域の発展に寄与されている方や学校の運営に御協力いただいている方、小学校の教員などに地域代表として参加していただいた。会の中で、「次の世代に、まちづくりに関わってほしいと思っていた」「校内でとても元気に挨拶してくれたが、外でも元気にしてほしい」



【(資料2) 第2回サミットの様子】

「どうやって大人と連携をしていくのか、連携の仕方をアピールできると良い」など、それぞれの立場から、平和町に住む子どもたちへの思いや願いと、貴重な意見や指摘をいただくことができた。

(3) 仲間づくり活動

地域を元気にする活動の一環として、8月4日と6日に平和町クリーン大作戦を行った。地域への情宣を中学校が担当し、清掃活動の内容と募集要項の作成を各小学校が担当した。

当日は、大変暑い中、小学校区ごとに小・中学生と地域の方、小・中学校の教員が協力して地域をきれいにする活動に取り組んだ(資料3)。参加者全員で気持ちのいい汗をかきながら、通学団の集合場所や公園、神社、通学路などのごみを精力的に拾い、きれいにする事ができた。一緒に活動する小・中学生と地域の方が、元気に挨拶を交わしたり声を掛け合ったりすることで、明るい雰囲気の中で活動することも大切にした。参加生徒からは「僅かな時間でもたくさんの人が協力し、真剣に取り組むとこれだけ変わるんだと思った」などの感想が聞かれた。地域の方からも「地域の小・中学生と一緒に活動する機会がほとんどないので、この活動は本当にうれしい」との声が聞かれ、この活動が地域を元気にする一つのきっかけになった実感を参加者全員で共有することができた。



【(資料3) 平和町クリーン大作戦】

クリーン大作戦以外にも、平中一斉除草や見守り下校、小学校運動会へのボランティア参加など、様々な活動を企画し、実践する中で、多くの生徒が、今まで意識しなかった「地域」を意識することができるようになっていった。

(4) 仲間づくり活動報告会

地域の方を招き、仲間づくり活動報告会を開催した。始めに、仲間づくりサミット、平和町クリーン大作戦、小学校運動会ボランティアなど、これまで中学校と3小学校が協力して取り組んできた平和町を元気にする仲間づくり活動の取組の様子を報告した。その後、アンケート結果を基に、この活動を通して、生徒の意識がどう変容してきたのかを発表した。最後に、生徒全員で考えた「平和町を元気にする一言」の中からクラス代表作品を発表した(資料4)。平和町への思いを作品に表し、地域の方に聞いてもらうことができた点で良い機会となった。地域の方から全校生徒に対して「平和町への思いが伝わって、本当に感動した」との言葉をいただき、活動の成果を全員で共有することができた。



【(資料4) 仲間づくり活動報告会】

3 実践の成果や課題

アンケート結果で「地域に見守られていると感じることがあるか」の質問にも、事前アンケートでは、肯定的な回答が80%だったのが、85%に増加した。また「平和町の役に立ちたいか」の質問に、事前のアンケートでは、肯定的な回答が57%だったのが67%に増加した。いずれの結果も、事前アンケートと比べて上昇している。これらの結果から、地域に支えられているという視点をもつことができたことや、地域を大切にしようという気持ちが育ったことがうかがえる。これは地域の方と一緒に活動をすることで、より身近に地域を感じたことや、地域の方の思いや願いに触れることで、地域の方が自分たちに何を望んでいるのかについて知る機会がもてたことに起因していると考ええる。

一方、小・中学校が連携して、地域に貢献できる児童生徒を育成するために、9年間を見通してどのように児童生徒を育てていくのかというキャリア教育の視点が不十分であった。

今後、総合的な学習の時間のカリキュラムの系統性の検討や、学習規律の統一などを図りつつ、9年間を見通した「平和町で目指す児童生徒像」の作成を進めていきたい。